

聖書:エレミヤ書7章1～20節

説教:あなたがたの生き方と行いを改めよ

はじめに

能登半島では正月に地震で被害を受けたばかりなのに今度は大雨による災害で苦しんでいます。アメリカ東部では大型のハリケーンで大きな被害が出ていて、現地の気象予報士もこの25年間で初めての経験だと言っておりました。これも地球温暖化のせいなのかと不安になります。また一方ではイスラエルとレバノンとのことから、中東で大きな戦争に発展する可能性があると言われていています。ロシアとウクライナの戦争も、核爆弾を使うとか原子力発電所を破壊するというような話が現実味を帯びています。こんなときだれもが考えるでしょう。どうして異常気象が頻繁に起きるようになったのか。どうして人間は愚かな戦争を繰り返すのか。専門家は地球温暖化の原因について説明します。戦争が起こる原因についていろいろ言っています。では聖書はどのように語っているのか。ともに見てまいります。

1 生き方と行いを改めるなら

1) 「天の女王」を拜む

エレミヤが預言者として活動しはじめた頃、すでに北イスラエルはアッシリアに滅ぼされていました。そして残った南王国ユダは、政治的には北のバビロンの脅威にさらされ、また農業の面で言えば、雨が降らず日照りで作物が育たず、羊も痩せ衰え食べるものに事欠く、そんな自然災害に苦しんでいた時代でもありました。そんなとき、人々は何を考えたか。もしバビロンが攻めてきたならエジプトに逃ればよい。畑のことについては、「天の女王」にお供えをして熱心に拜めば雨が降るに違ると考えます。それで子どもたちは薪を集め、火をたいてパン菓子をせっせと作った。もちろんこれは律法に背く行為ですから、主は怒ります。

そしてこう言われる。5節から7節。「もし、本当に、あなたがたが生き方と行いを改め、あなたがたの間で公正を行い、寄留者、孤児、やもめを虐げず、咎なき者の血をこの場所で流さず、ほかの神々に従って自分の身にわざわいを招くようなことをしなければ、わたしはこの場所、わたしがあなたがたの先祖に与えたこの地に、とこしえからとこしえまで、あなたがたを住まわせる。」

2) 原因は私たちの行いにある

つまりこう言っているのです。あなたがたが公正な行いをするなら、ここで生き延びることができる、雨も降る。初めて聖書を読む方はびっくりするでしょう。ウクライナの戦争を見たら、自分たちの国を守るためにはやっぱり強い軍隊・兵器が必要だと思った人は多いはず。公正に生きるのか、やもめを大切にしろとか、そんなことは関係ないだろう。たぶん、こんなふうな反論されるでしょう。それは当然とも言える。たとえば、よくニュースで「線状降水帯が発生する可能性があります」と言って警戒を呼びかけています。どうしてあのような予報ができるか。スーパーコンピューターで計算しているのです。それで何時頃にどれだけの雨がどこに降るかわかる。雨の降り方というのは数字で計算ができる。私たちが公正に生きているかどうかは、まったく関係ない。これが科学の力です。しかし聖書は違う。科学が無視している要素、すなわち私たちの生き方と行いが原因こそが自然災害や戦争の原因である。これはいったいどういうことでしょうか。

2 偽りのことばを頼りにしている

1) ほかの誰かではなく

まず6節。「寄留者、孤児、やもめを虐げず、咎なき者の血をこの場所で流さず、ほかの神々に従って自分の身にわざわいを招くようなことをし」ているのかどうか。そして、8、9節。「見よ、あなたがたは、役に立たない偽りのことばを頼りにしている。あなたがたは盗み、人を殺し、姦淫し、偽って誓い、バアルに犠牲を供え、あなたがたの知らなかったほかの神々に従っている。」

6節と、8、9節でいっていることはほとんど同じです。こう言っている。二つあります。一つは、貧しい人困っている人を虐げているかどうか。それが盗みであり、人を殺すことであり、姦淫にもつながる。二つ目は、ほかの神々に犠牲を供えてその神々に従っている。この二つを一言でまとめれば、偽りのことばを頼りにしていると言ってよい。

地震や大雨など大きな災害が起きていくのはなぜか。私たちが偽りのことばを頼りにして、偽りの生活をしているから。この世界に戦争が繰り返され、小さな子どもたちや関係のない人たちが巻き添えになって死んでいくのか。あの政治家が悪いとか、どこの国のこういうことが悪いからというこ

とではなく、あなた自身が偽りの生き方をしているからだ。

地球温暖化の問題や戦争の問題、そのことを聞くたびにみなさんはどう思っていたのでしょうか。資源のリサイクルや二酸化炭素をなるべく出さないようにしているけれど、個人のちっぽけな努力で本当に問題が解決されるのだろうか。それよりも二酸化炭素を沢山出している大企業が努力すべきである。それが本音ではないか。戦争についてもそうです。戦争が止むようにと祈っても、具体的に何かできるわけではない。せいぜい、紛争地域で働く宣教師やNGOに献金するくらい。戦争の事になるとあまりにも問題が大きすぎて無力感が先立ちます。しかし聖書は言います。自然災害も、戦争も、ほかのだれかのせいではない。あなたの生き方が間違っているから、あなたのせいでこのような世界になってしまった。

2) 罪が自然界に及ぼす影響

ロマ書8章22節にこうあります。「被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。」なぜ苦しんでいるか。最初から苦しんでいたのではありません。神がこの世界を造られた最初は、神が「それは非常に良かった」が言われるくらいすばらしかった。ところがアダム以来、私たちの偽りの生き方、罪が自然界にも及んでしまったのでこのようになってしまいました。

科学者は、産業革命以来、人間がたくさん二酸化炭素を出すようになったので地球環境のバランスが崩れてきたとは言います。しかし人間の罪のことは触れません。地球温暖化を止めたいと思っただけならまずあなたが悔い改めるべきである、とは言いません。戦争についても、政治学者や哲学者はいろいろ戦争の原因について分析するかもしれませんが、戦争を止めるために、まずあなたが悔い改めるべきです、とは絶対に言いません。

3 イエス・キリスト

1) 強盗の巣

神はどうされたのでしょうか。11節に「強盗の巣」ということばが出て来ます。このことばを手がかりに今度はイエスに目を向けていきます。マルコの福音書11章15節から17節。「こうして彼らはエルサレムに着いた。イエスは宮に入り、その中で売り買いしている者たちを追い出し始め、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒された。また、だれにも、宮を通過して物を運ぶことをお許し

にならなかった。そして、人々に教えて言われた。「『わたしの家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれる』と書いてあるではないか。それなのに、おまえたちはそれを『強盗の巣』にしてしまった。』

献金のための両替人の店や犠牲を献げるための鳩を売る店、神殿の中にそういう店がひしめいていた。今で言えば神殿の中にコンビニがあるようなものですから、礼拝者にはとても便利なはずだった。ところが、いつもは温厚で優しいイエスが、このときだけは乱暴で、「あなたがたはこの神殿を強盗の巣にしてしまった」と嘆きながら、店を追い出してしまう。エレミヤのときもイエスが来られたときも人々は何も変わっていないのです。決められたとおりの金額と貨幣で献金すればよいとか、律法で決められたとおりに鳩を献げればよい。そんなふうに形式が大切で、心なかでなにを思っているのか、そんなことは関係ない。実はそのことこそが問題だった。エレミヤもイエスも、口をそろえて厳しく指摘する。「あなたがたは、主の宮を強盗の巣にしてしまった。』

2) 十字架に追いやられるイエス

それにしてもイエスはもう少し穏やかにできなかったのか。乱暴にふるまわなければならなかった理由があります。店を出す許可を出したのは、神殿を管理していた祭司長や律法学者たちです。そこへイエスが横やりを入れて追い出したのですから、当然腹を立てる。それでどうなったか。マルコ11章18節。「祭司長たちや律法学者たちはこれを見て、どのようにしてイエスを殺そうかと相談した。群衆がみなその教えに驚嘆していたため、彼らはイエスを恐れていたのである。』

イエスがあえて乱暴なことをしたのは、祭司長たち怒らせて、十字架を確実にしていくためでした。

3) 闇に輝く星とさせていただく

今朝、主は「生き方と行いを改めよ」と言われます。外側の行いではありません。内側の行いです。でもどうでしょうか。内側にはなにがあるか。怒りが渦巻き、あの人を赦すことができない、そんな苦々しい思いが消えません。もちろんそんな悪い思いから解放され、人との関係でいつも公正でいられるのなら、隣人を愛せればと願いはします。しかしそう願った次の瞬間、してはいけないことをしてしまっている。だからこそ、こんな私たちのためにイエス・キリストが必要なのです。この方が代わって十字架でさばきを受けられた。そのこ

とを信じるならば、あなたは生き方と行いを改めたことになる。あなたは約束の地、天の御国に迎えられてとこしえからとこしえに住むことができる。これが真理のことば、救いのことばです。

自分ひとりが信じたから、それで世の中が変わるとは思えない。でも神はアブラハムにこう言っている。創世記15章5節。「そして主は、彼を外に連れだして言われた。『さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。』さらに言われた。『あなたの子孫は、このようになる。』」今は今は小さな信仰に見えても、やがてこの信仰は増え広がって世界の闇を照らし出すようになる。それほど力を持っている。

世界には偽りのことばがあふれ、人が人を殺し合うような世界です。でも神は私たちが待っています。もしあなたがいま悔いて十字架のみもとに戻って、神と共に歩みたいと決心するなら、この世界はまた一歩大きく神の国に近づいていく。このことを信じてまた歩んでまいります。